



東京地区生コンクリート協同組合
〒103-0027東京都中央区日本橋3丁目2番5号
電話番号 (03) 3271-2181
URL:https://www.t-namakyo.jp/
発行責任者 高 村 尚

＝協組の動き＝

(6月)

9日(月) 理事会(No. 1239)

23日(月) 理事会(No. 1240)

(7月)

14日(月) 理事会(No. 1241)

28日(月) 理事会(No. 1242)

人事異動 【離任】		
日付	部署	氏名
4月11日	営業部	廣瀬 裕紀
5月15日	調整管理部	神 正広
【着任】		
日付	部署	氏名
4月16日	調整管理部	土田 慎太郎
5月11日	営業部	大石 剛

2024年度 営業・技術概況報告紹介

通常総会議事終了後に2024年度の営業概況及び技術概況報告を以下のとおり行いました。

【営業報告】(報告者:要営業委員長)

2024年度の活動については、理事長方針である四つの課題、①出荷ベースの完全定着と適正価格の獲得、②安定供給の確保、③完全週休2日制の導入とスライド改定、④戻りコン・残コン・出荷キャンセルの削減に則り、ユーザーとの相互理解の形成、登録販売店との信頼関係の構築、組合員の団結強化を基本姿勢として活動を展開して参りました。

1、販売形態と債権保全について

2001年10月に開始した登録販売店制度による販売形態と現金取引は24年になるが、2024年度も順調に売上代金を回収している。

(1)登録販売店数

毎年度の契約更新にあたり、全登録販売店との意見交換を実施し、2025年4月1日付けで29社と契約を更新した。

(2)2024年度末債権保全状況(2025年3月末)

債権額40億12百万円に対し、銀行保証と相殺契約を合わせた保

第388号 2025年(令和7年)6月15日発行

第49回 通常総会を開催

第49回通常総会が5月26日に都内のホテルの会議室にて開催されました。

森理事長の挨拶の後、議事に移り、議長には常任理事の桐生 了英氏が選任されました。

まず2024年度の事業報告並びに決算関係書類、2025年度の事業計画並びに収支予算など第1号～第6号議案まで計6件の議案が審議され、全件原案通り承認されました。



桐生議長

次に、本年は役員改選期に当たるため、第7号議案として、役員(理事・監事)の任期満了に伴う改選が審議され、原案通り承認されました。

【総会付議議案】

第1号議案

2024年度事業報告書並びに決算関係書類承認の件

第2号議案

2025年度事業計画並びに収支予算決定の件

第3号議案

2025年度経費の賦課金並びに徴収方法決定の件

第4号議案

2025年度受注量割賦課金、特別受注量割賦課金決定の件

第5号議案

役員報酬最高限度額決定の件

第6号議案

借入金残高の最高限度額決定の件

第7号議案

役員(理事・監事)全員任期満了に伴う改選の件

【理事】(敬称略)

(新任) 佐藤 清治 日本強力コンクリート工業(株)

穴戸 邦啓 穴戸コンクリート工業(株)

(退任) 酒井 勝弘 日本強力コンクリート工業

穴戸 啓昭 穴戸コンクリート工業(株)

【新執行部決定】

通常総会後に開催された理事会において、理事長には引き続き上陽レミコン(株)代表取締役社長 森 秀樹氏が選出されました。正副理事長は以下のとおりです。

(理事長) 森 秀樹 上陽レミコン(株)

(副理事長)

一ツ木 正 (株)東京菱光コンクリート

嶋津 成昭 関東宇部コンクリート工業(株)

長谷川 義孝 東京エスオーシー(株)

要 秀和 東京コンクリート(株)

工組・協組・卸協 三組合合同懇親会 開催報告

当日に開催された三組合の通常総会終了後の合同懇親会において、当協組 森理事長から以下の挨拶がありました。



(右から) 工組 斎藤理事長

協組 森理事長

卸協 高橋理事長

本日の通常総会におきまして理事長に再任いただきました。今後ともよろしくお願いいたします。また日頃より皆様には当協組の活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

再任ではございますが、私は昨年の途中から前理事長を引き継ぎ理事長職に就きました。3,000円/㎡の値上げ、スライド改定、週休2日制の導入、残コン・戻りコンの有償化の価格アップ、キャンセル料の改定を、この4月より同時に始めました。関係各社の皆様に非常にご協力いただき、おかげさまで「建設物価」及び「積算資料」にいち早く反映され、6月号にて3,000円/㎡の満額アップとなりました。両調査会様に感謝申し上げます。ここに大きな流れができたため、周辺協組にも良い影響が出ることを心から望んでいるところです。

今年の東京協組としては「出荷ベース」という期間契約を浸透させて、特に長期物件の多い当協組においては年度毎に価格を決めさせていただく、ということを定着させていきたいと思います。当協組は再開発案件等の大型物件が多く、需要の背景としては良いものの、人材不足等をはじめ色々な点でなかなか捗々しない状況が続いておりますが、何とかして我々は高品質の生コンと安定供給を目指して精進して参りますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日より皆様の益々の発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

の改定を要請した結果、以下のとおり早期に価格反映された。

	改定時期	改定内容
建設物価	2023年9月	17,800円⇒19,800円
	2024年6月	19,800円⇒20,800円
	2025年6月	20,800円⇒23,800円
積算資料	2023年10月	17,900円⇒19,600円
	2024年6月	19,600円⇒20,600円
	2025年6月	20,600円⇒23,600円

(2)広報活動

日本経済新聞並びに業界各紙、両調査会に対し必要の都度、記者懇談会を開催し、当協組の現状及び取り組み事項について説明した。

(3)販売価格

2022年6月1日からのP契約番号として3,000円/㎡の値上げに注力し、ほぼ満額を確保している。更に2023年4月1日からのR契約番号として出荷ベースで2,000円/㎡の値上げ、2024年4月から1,000円/㎡の値上げに注力し、ほぼ満額を確保している。また、2025年4月からは3,000円/㎡の値上げに取り組み、現在計画どおりに進んでいる。

4、2024 年度の営業関係の状況及び次年度の課題

(1)販売価格の確保

2024 年度の販売価格については、原材料費・運搬費等の急激且つ恒常的な上昇に対応する為、4 月から 1,000 円/㎡の値上げを実施した。また、2025 年度の販売価格は、更なるセメントの値上げや粗骨材・細骨材及び輸送費の値上げ等の価格転嫁を図る為、4 月 1 日から 3,000 円/㎡(定価 25,000 円/㎡)の値上げを実施するとともに出荷ベース契約の定着を図っている。

(2)組合員の経営維持

2024 年度は急激な原材料のコストアップ負担先行による組合員各社の経営圧迫の緩和措置として、2023 年度に引き続き銀行借入による仕入れ価格増額補填を実施している。

(3)ゼネコンとの相互理解、商流との連携強化

ゼネコンとの相互理解を深める為、日本建設業連合会資材対策委員会、関東資材研究会との意見交換を定期的に実施した。

また、登録販売店と様々な会議を通じて、関係活性化及び課題解決の為のベクトル合わせを実施している。

(4)2025 年度の課題

2025 年度は、契約形態の出荷ベースへの変更 3 年目となることから完全な定着を図ることとしている。また、4 月 1 日実施の 3,000 円/㎡の値上げの早期満額獲得に向け精力的に取り組んでいく。併せて、スライド改定実施、残コン・戻りコンの処理量削減、更には出荷キャンセル料金の 2 営業日前から対象とすることで安定供給の確保を図ることとしている。販売店との意思疎通を十分に図り現状を共有し、ゼネコンからの理解・協力が得られるように努めることとする。

【技術報告】（報告者：一ツ木技術委員長）

1、2024 年度の主な活動

(1)WG 活動の推進

スライド改定 WG で改定案を作成し、9 月 24 日開催の理事会において機関決定された。(2024 年度中の会議開催 8 回)

(2)軽量骨材への対応について

軽量骨材製造工場の設備トラブルが頻発し、供給不足が顕著となったことから、製造工場に往訪して状況把握に努め、ゼネコン及び設計会社等からの問い合わせに対応した。

(3)2024 年度品質チェックシステム

技術委員会での決定に従い、2024 年度品質チェックシステムを実施

【検査内容】

- 1)骨材の現物確認
- 2)事務局による使用骨材産地・石質照合
- 3)判定会議による検査結果の判定

【判定結果】

全工場が「整合」の結果判定

(4)組合員報告書の実施

苦情・トラブルの再発防止、技術情報の共有化
総報告件数：1 件（納入関連トラブル 1 件）

(5)各種講習会参加

JCI 年次大会 2024(松山) 6 月 26 日～27 日
「生セミナー」聴講(参加者 31 名)
その他、各種講習会への参加。

(6)各種関係団体との定期懇談会開催

- 1)第三者試験機関との意見交換会・・・未開催
- 2)混和剤協会関東ブロックとの技術交流会実施(3 月 13 日)

(7)協組品質管理監査結果

圧縮強度試験結果の推移

	‘21	‘22	‘23	‘24
改善勧告件数	2	1	1	1

(8)東京都生コンクリート品質管理監査への対応状況

- 1)品質管理監査委員会 4 回
- 2)品質管理監査対応 品質管理監査：2 工場、査察：2 工場、上・下期中間監査：5 工場

(9)関東 1 区・東京都工組・共同試験場合同技術委員会

- 1)合同技術委員会 3 回
- 2)技術研修会(10 月 16～17 日開催) 東京電力刈羽原子力発電所見学

(10)各種会議

- 1)技術委員会：3 回、技術部会：7 回、ブロック技術部会：10 回/ブロック
・各種情報提供、組合員工場からの報告及び技術対応方針決定
・登録販売店への説明(文書発信及び説明会開催)
- 2)合理化委員会 1 回
- 3)卸協との業務連絡会 10 回

2、2025 年度技術委員会活動計画

(1)軽量骨材への対応について

- 1)海外品軽量骨材の導入を検討しているゼネコン及び販売店への対応
- 2)設計会社などからの問い合わせ対応

(2)WG 活動の推進

- 1)協組創設 50 周年記念誌編纂への協力
- 2)新規 WG 設置の検討

(3)単位水量推定試験への対応について

ビデオによる PR を継続。また、データ収集の可否を確認し、状況によっては試験練りを計画する。

(4)各種講習会参加

- 1)JCI 年次大会 2025(盛岡)生セミナー (7 月 16・17 日、参加予定者 30 名)
- 2)その他随時必要な講習会に参加

(5)各種関係団体との懇談会の開催(年 1 回を目標)

- 1)混和剤協会関東ブロック
- 2)第三者試験代行試験機関

(6)2025 年度品質チェックシステム

立入検査は従来と同様に日本品質保証機構に委託。
検査方法は、通年・無通告を原則とする。

わが社のじまん話

関東宇部コンクリート工業の「わが社のじまん話」を、総務部がご紹介します。

数ある自慢の中でも、今回は「豊洲工場」と「大井・品川工場」に焦点を当ててお話しさせていただきます。

豊洲工場：街と共に歩む半世紀以上

まずは豊洲工場について。豊洲地区は、元々臨海部の埋立地であり、1980 年代後半までは工場や倉庫が立ち並んでいました。関東宇部コンクリート工業がこの地に進出したのは、63 年前の 1962 年（昭和 37 年）のことです。

当時の豊洲工場周辺には、いすゞ自動車さんの工場や大成ロテックさんのアスファルト合材工場、日本通運さんの倉庫など、まさに工業団地そのものでした。

しかし、時を経て多くの工場が姿を消し、跡地には高層マンションが次々と建設され、人口増加に伴い小学校や商業施設の建設も進められました。今では、湾岸地区で人気のエリアへと変貌を遂げています。

そのような環境下、豊洲地区で操業を続けている豊洲工場は、現在マンションと運河に囲まれています。この地区と共存していることが当社の大きな自慢です。これからも豊洲の街と共に発展していきたいと考えております。



関東宇部コンクリート工業株式会社

大井・品川工場：

歴史をつなぐ「お稲荷様」

次に大井・品川工場のお話です。同工場の一角には、大切なお稲荷様が祀られております。このお稲荷様は、65 年前の 1960 年（昭和 35 年）、当社の第一号生コンクリート工場「蒲田工場」の操業開始時に建立されました。以来、当社の発展と工場の安全操業を見守り続けてくださっています。1980 年（昭和 54 年）に工場を大田区城南島に移転した際も、お稲荷様は丁重にお遷しいたしました。その後、2003 年（平成 15 年）に稲荷宮、2019 年（令和元年）には灯籠と鳥居の建て替えを行うなど、長年にわたり関東宇部を見守って頂いております。毎年 2 月最初の午の日には、六郷神社の宮司さんをお招きし、「初午大祭（はつうまたいさい）」という祭礼を執り行います。祭壇には、鯛やお酒、お稲荷様の好物とされる油揚げなどが供えられ、関係者一同が参列し、商売繁盛と工場安全を祈願する大切な神事として操業以来今日まで続けられています。この祭礼は、大井・品川工場だけではなく、関東宇部グループ全体の商売繁盛と安全を祈願するものです。このように立派なお稲荷様が祀られている生コンクリート工場は珍しいと伺っておりますので、当社大井・品川工場にお立ち寄りの際は、是非お気軽にご参拝ください。



(出荷数量)				(引合、成約、契残)			
5月(実績)			6月(想定)		5月(実績)		
		前年比		前年実績比			前年比
大型	167,641 m ³	86.6%	170,000 m ³	85.7%	引合	185,859 m ³	89.6%
小型	20,519 m ³	91.5%	20,000 m ³	90.7%	成約	156,219 m ³	90.4%
計	188,160 m ³	87.2%	190,000 m ³	88.2%	契残	3,990,060 m ³	115.9%